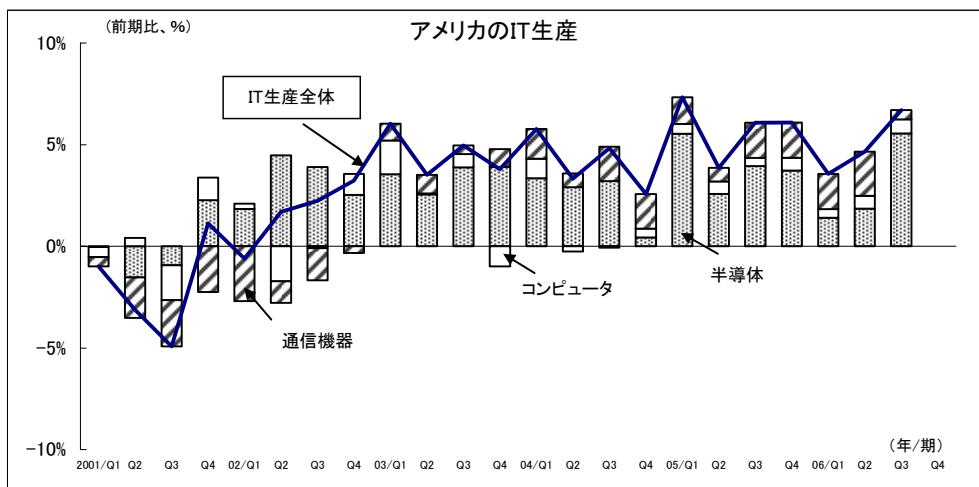


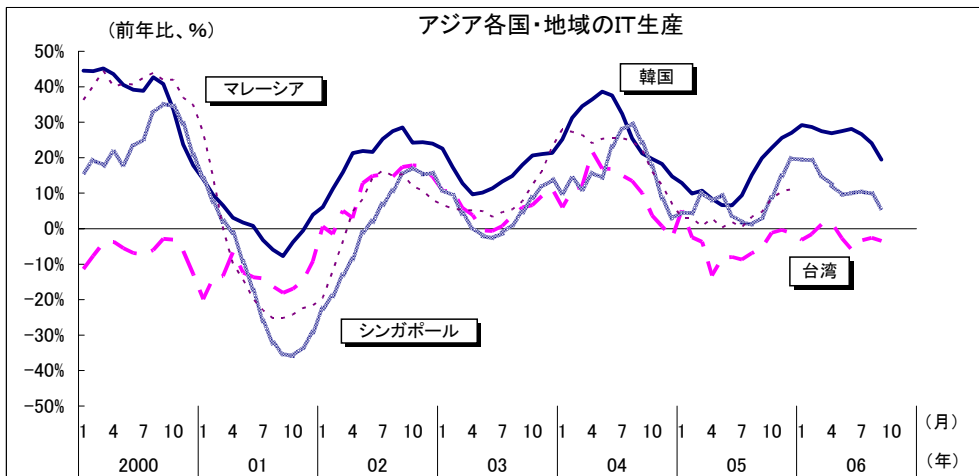
<最近の状況>

アメリカでは、2001年に減少した I T 生産は、02年半ばから回復に転じ、03年以降は拡大が続いている。内訳をみると、デジタル家電等、用途が拡大している半導体が全体の伸びを牽引している。

アジアの I T 生産は04年後半から05年にかけて低い伸びとなったものの、その後は総じて堅調な動きが続いている。しかし05年後半からの高い伸びから、足元ではやや鈍化がみられる。



(備考) アメリカ商務省



(備考) 1. 各国・地域統計による。  
 2. 韓国は電子製品、コンピュータ、通信機器等の合計、台湾は電機電子器材、シンガポールは電子製品・部品、マレーシアは電気機械・装置・設備及び部品のデータに基づく。

世界の半導体売上の推移をみると、I Tバブルの崩壊による影響は一時的なものにとどまり、03年以降は回復に転じている。05年には前年比6.8%増とやや伸びが緩やかになったものの、携帯電話の需要拡大などから、06年は再び伸び幅が拡大する見通し（同9.8%増）となっている。

## ＜今後の動向＞

従来のコンピュータ、通信機器向けに加え、デジタル家電や携帯音楽プレイヤー、自動車部品など一般消費者向けのI T需要の裾野は広がっており、I T製品の需要は拡大している。先行指標といわれる北米半導体製造装置BBレシオの低下など、07年にかけては循環的な需要鈍化の兆候もみられるものの、アジア地域におけるI T製品需要の拡大などを背景に、S I A（半導体協会）によると世界の半導体売上は、07年に前年比11.0%増、08年に同12.0%増と高い伸びが続くことが見込まれている。

